

スーパーグローバル大学創成支援事業 令和6年度事後評価結果表

大 学 名	上智大学
整理番号	B15
構 想 名	多層的ハブ機能を有するグローバルキャンパスの創成と支援ガバナンスの確立

◇スーパーグローバル大学創成支援プログラム委員会における評価（公表用）

（総括評価） S	優れた取組状況で事業目的が十分に達成され、今後も持続的な発展が確実に期待できる。
（コメント） 事業期間全体において、「世界をつなぐ「叡智（ソフィア）」の醸成」、「グローバルキャンパスの創成」、「世界に並び立つ教育研究を支援するガバナンス改革」を柱として先導的なグローバル教育の展開と実現のための環境整備を行い、貴学の目指す人材育成に取組んだものとなっている。事業期間中、社会や教育環境の変化に直面しつつも、中長期計画「グランド・レイアウト」との連動等を通して目標をぶれることなく追求し、成果を積み上げてきたことは、他大学の模範となるモデルケースである。 事業展開では、全学のグローバル教育を担う組織へと改組し拡充を重ねた「グローバル教育センター」を中心に学生支援体制を強化したことで、海外協定校の拡大に繋がり、さらには実践型プログラムや多様な海外派遣やインターンシップ等を充実させ、学生に多様な学びの機会を提供してきたと言える。中でも、タイの海外拠点とそれを発展させた事業会社「Sophia GED」を活用した海外研修プログラムは、チャレンジングで多様性に富み、多くの学生を魅了する「グローバルキャンパス」が創出されている。 また、学生が自らの学修成果を分析できるシステムや、COILを活用したオンライン教育プログラム導入等により、自主的な学習を可能にする環境を整備したことや、海外大学院との連携による一貫プログラムの提供により進路の多様性を確保したことだけでなく、社会人向けのリスキリングでは企業と連携することで、社会貢献も実現している。中長期計画「グランド・レイアウト 3.0（2023～2030 年度）」ではこれまでの成果を踏まえ、さらに高い目標を目指すビジョンを示しており、今後も持続的な発展が確実に期待できる。 一方で、数値目標において非常に高い成果を達成されたことは評価できるが、一部未達のものも見受けられる。本事業で構築された質の高いグローバル教育や実践型プログラムの基盤に加え、更なる研究力強化や教職員のグローバル対応能力向上を図り、教育・研究・社会貢献のそれぞれの面で発展を期待したい。 最後に、スーパーグローバル大学創成支援事業による補助期間は終了したが、引き続き徹底した「大学改革」と「国際化」を断行し世界的に魅力的なトップレベルの教育研究を行い、我が国社会の国際化の牽引に寄与されることに期待する。	